

東溪中学校だより



1、令和6年度2学期中間 進捗状況について

2年生の修学旅行も無事に終わり、運動会、文化祭終了後の主だった行事は、残すところ11月21日の公開授業の発表のみとなりました。前例踏襲型の教育課程では、「行事を成功させよう」「子どもの活躍する姿が…」等、いわゆる「ワンショット的」に捉えられ、目的化しがちでした。もちろん取組の中で見られる子どもの成長は、保護者をはじめ、職員の充実感、達成感に直結していることは言うまでもありません。

そんな中、本校では、日田市の中学校として、例外なく淡窓先生の教えにある「鋭きも鈍きも共に捨て難（がた）し 錐（きり）と槌（つち）とに使い分けなば」を「個別最適な学び」のこととして充実させ、子どもたちが日常学んでいることを、整理、統合したり、仲間同士の多様性に富む様々な視点から持ち寄った意見や考えを「気づき、生かしたり」して、行事は「**学びを深める絶好の場**」として捉えてきたところです。

2、公開発表会に向けた現状の分析結果から（成果と課題）

「東溪中だより 第6号」までも、お知らせしましたように、「授業規律の徹底」、「相手軸」に立つこと、「生徒の内発性の喚起」に重点をおき、取組を進めております。そのような中、中間評価としての成果と課題です。

【成果】

○「ありがとうの木」「人権宣言」「心と身体の健康観察」「全校happy birthday」「自分も友だちも大切に作る授業」「自分も友だちも大切に作る学校」「話の聴き方あいうえお」等の日常的な取り組みにより、**支持的風土（お互いが安心して自分の考えを出し合える集団作り）が醸成**されつつある。

○この取り組みの継続により、「自分の良いところも悪いところも含めて自分自身を大切にしたい」という本校の教育目標である「**自尊感情**」の醸成もなされている。



【総括】今後の方向性

現時点では、**支持的風土の醸成、非認知能力は向上傾向**にあり、一定の成果が出ていることがうかがえるが、認知能力、**とりわけ「言語能力」については、対話的活動を通して多様な個性や多様な考えを認め合う生徒の育成のために、今後も引き続き、その向上を目指す必要がある。**

⇒後半期最重点的取組になりそうです

【課題】

▲「互見授業」「提案授業」「日常の授業」における対話的活動の実践において、多くの生徒が自分の言いたいことが相手に伝わるように努力しており、自分の考えや根拠を理由と一緒に伝えようとしていることがわかるが、その際必要となる語句や表現が定着するような授業展開がまだ不足している。（教員 単元構想の工夫）

※この課題をふまえた今後の組織的な授業改善策として以下が挙げられる

- ◇習得語彙を用いた振り返りを**徹底する**
- ◇**教師による適切なフィードバック**を行い、対話的活動を通じた喜びや満足感をもたせる
- ◇自立した学習者を育てるため、**授業と家庭学習を一体化**させる

▲生徒アンケート全体では成果ととらえられる傾向や変容がある一方で、否定的回答をしている少数の生徒の存在も忘れてはならない。その生徒の背景や日々の生活の様子を教職員全体で共有し、一人一人の心に寄り添いながら、見守っていく必要がある。

